

令和4年度病害虫発生予察注意報第6号

令和4年11月1日
愛知県

作物名：トマト
病害虫名：コナジラミ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

10月下旬に県内14ほ場で行った巡回調査において、成虫寄生枝率が14.0%（平年3.9%、前年10.9%）、発生ほ場率は57.1%（平年34.0%、前年50.0%）で、いずれも過去10年で最も高かった。

また、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病の発病株率が1.79%（平年1.09%、前年1.86%）と、過去10年で3番目に高かった。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展開する。
- (2) 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺する。
- (3) 多発すると防除が困難となるため、発生初期に表を参考に防除する。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避け、気門封鎖剤も活用する。
- (4) 耐病性品種もトマト黄化葉巻ウイルスに感染するため、感受性品種と同様にタバココナジラミの防除を行う。
- (5) 花粉交配用昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して農薬を選定する。
- (6) タバココナジラミ（図1）はトマト黄化葉巻病（図2）の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介する。ウイルスの発病株は見つけ次第抜き取り、適切に処分する。



図1 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）



図2 トマト黄化葉巻病の発病株

表 トマトのコナジラミ類に対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRAC コード
ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤※ ¹	収穫前日まで	3回以内	4A
アグリメック※ ²	収穫前日まで	3回以内	6
アニキ乳剤※ ¹	収穫前日まで	3回以内	6
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	9B
アプロードエースフロアブル※ ¹ ※ ²	収穫前日まで	3回以内	21A, 16
ベネビアOD※ ¹	収穫前日まで	3回以内	28
トランスフォームフロアブル※ ¹	収穫前日まで	2回以内	4C
ディアナSC※ ¹	収穫前日まで	2回以内	5
サフオイル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖）
サンクリスタル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖）
ベミデタッチ	収穫前日まで	—	UNE*（成虫忌避）

※¹ 成虫に対して感受性が低い事例があるため注意すること。

※² ミニトマトに未登録。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2022/mechanism_irac02.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

気門封鎖剤は、散布液がコナジラミ類に直接かかるとないと効果がないため、丁寧に散布する。

ベミデタッチは、殺虫効果はなく忌避効果が主体であるため7日間隔で複数回散布する必要がある。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-62-0085 内線471